



【戦評シート】

平成 16 年 5 月 3 日 (月)	協会名 : 能代市 バスケットボール協会				
場 所 : 能代市総合体育館	記入者 : 田中 晃喜				
チームA 安城学園高校 86	{ <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>15-21</td></tr> <tr><td>12-21</td></tr> <tr><td>30-23</td></tr> <tr><td>29-32</td></tr> </table> } 97 チームB 能代工業高校	15-21	12-21	30-23	29-32
15-21					
12-21					
30-23					
29-32					

スターター	チームA : #4清水、#5中野、#6永田、#7伊藤、#13宇佐美 チームB : #4宮城、#5二田、#6信平、#7梁川、#8齊藤
ディフェンス (試合開始時)	チームA : <input type="checkbox"/> マンツーマン <input checked="" type="checkbox"/> ゾーン (2-1-2) <input type="checkbox"/> その他 (オールコートゾーンプレス) チームB : <input type="checkbox"/> マンツーマン <input checked="" type="checkbox"/> ゾーン (2-1-2) <input type="checkbox"/> その他 (オールコートゾーンプレス)

能代工業出身の金子監督率いる安城学園と能代工業の今大会注目の一戦となった。

第1Q、能工#4宮城の3Pで始まり、オールコート2-1-2からプレッシャーをかける。同じく#8齊藤3P、#7梁川2P、#8齊藤3Pと続き残り7:15で安城学園たまたまタイムアウト。序盤、能工は0-11と引き離れた。ここから安城の#6永田や#8伊与田などが得点を重ね、一進一退の攻防となるが速い展開から5本の3Pをしずめた能工が15-21と6点リードで有利に試合を進める。

第2Q、安城は#7伊藤の3Pで3点差に詰め寄りスタートするが、その後の速い展開に安城はなかなか得点できず、逆に能工は#9金谷の3本の3Pで引き離しに成功、27-42で前半を終える。

第3Q、双方ともなかなか得点できない状況が4分続くが、ここから一進一退となる。能工は第3Q終了間際にそれまで要となる活躍をしていた#4宮城が5ファールで退場。流れがやや安城に傾き、結局、第3Qは安城が6本の3Pなどで30-23と押し、57-65の8点差まで追い上げる。

第4Q、安城は残り6:36で66-72と6点差、1:12で81-86と5点差まで詰め寄るがファールがかさみ、2人が退場。宮城を欠くものの#5二田がリバウンドで頑張り、#8齊藤の3Pなどで着実に加点した能工に引き離された。能工はディフェンスで終始プレッシャーをかけ続け、リバウンドとルーズボールの執着心で上回り、リードを守りきった。第4Qで能工#8齊藤が20得点、計38得点と勝利の原動力となった。

注意：文面には試合内容のみご記入下さい。